



特 許 願

請

昭和30年9月6日

特許庁長官 斎藤英雄殿

1. 発明の名称 血ビス等の貫通孔穿設方法
2. 発明者
住所 愛知県豊橋市狐口町ノ丁目ノ番地
氏名 山本 幸
3. 特許出願人
住所 愛知県豊橋市狐口町ノ丁目ノ番地
氏名 株式会社 山本製作所
代表者 山本 文一
4. 代理人 宇 460
住所 名古屋市中区栄二丁目ノ番ノ号
氏名 名古屋商工会議所ビル内
氏名 (4134) 井理士 岡田 英彦
5. 添付書類の目録

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | / 通 |



① 日本国特許庁 公開特許公報

①特開昭 52-32192
④公開日 昭52.(1977) 3.11
②特願昭 50-108292
②出願日 昭50.(1975) 9. 6
審査請求 有 (全4頁)
庁内整理番号
6763 33

⑤日本分類
74 C1

⑤Int.Cl.²
B21D 28/34
B21D 35/00

明 細 書

1. 発明の名称

血ビス等の貫通孔穿設方法

2. 特許請求の範囲

血ビス等の貫通孔打抜きに際し、ワーク表面上への余肉盛り上りを防止すべく、血部の上端外周縁部に沿って切り込みを設けることを特徴とする血ビス等の貫通孔穿設方法。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、合板、ハードボード(硬質繊維板)、パーティクルボード等の板材に対し血ビス血鉄等を挿入するための貫通孔穿設方法に関するものである。

従来、合板、ハードボード、パーティクルボード(以下ワークという)等に上部に円錐状の凹部を開える血形孔の加工を施す場合第1図に

示すような二段ドリル印を用いて穿孔加工する方法が採用されていた。

この二段ドリル印を用いて血形孔の加工を施した場合、穿孔の孔面、とくに円錐状の凹部(凹)の面の木材繊維がむしれた状態となり、さらにはワーク(凹)の上面と円錐状の凹部(凹)とで形成される外周縁部(凹)が木材繊維方向にむしられ、ワーク(凹)の表面の美観が損われ、そのための補修等の手間が必要とされた。また適宜の間隔で多数の血形孔(凹)を一括穿孔する場合多軸ボール盤により行いが、この場合二段ドリル印を把握するチャックの大きさに制限されて、血形孔(凹)のピッチが設定される等の欠点があった。

また上記した二段ドリル印による血形孔加工法でなく、第2図に示す円錐面(凹)を有するポンチ印を用いてプレス等により打ち抜く方法でワーク(凹)

に血形孔(1)の加工を施した場合、ポンチ(5)の押圧力により血形孔(1)の外周縁においてワーク(4)の表面にしわ状の凸部(14)を生じ、表面の外観を損うばかりでなく、他部品をワーク(4)の表面に取付ける場合には一々上記凸部(14)を削り取る必要がありきわめて厄介であった。

本発明の目的は、上記した従来の欠点に鑑み、プレス等により血ビス血鉄等(以下血ビス等という。)の貫通孔を穿孔する方法を提供することである。

次に本発明の一実施例を図面にしたがって説明する。

まず、本実施例により成形される血形孔(1)の形状を例示して説明する。

(1)はワーク(4)に穿孔された血形孔で、同孔上部より圓錐円柱形状孔部(2)と円錐台形状孔部(3)と円

る。

第5図はプレス装置の要部を示すもので、成形ポンチ(5)は要求されるピッチでポンチホルダー(13)にそれぞれ螺着されている。この成形ポンチ(5)のポンチホルダー(13)への取付方法は本発明では限定しない。ポンチホルダー(13)の上部にはラム(14)が待機されガイドポスト(15)に嵌挿され上下に揺動される。ポンチホルダー(13)の下方にはテーブル(16)が設けられ、テーブル(16)上にはワーク(4)の位置決め用のストッパー(17)が適宜に配設されている。

引きつづき、上記装置により本例の血形孔(1)の穿孔方法を説明する。

ワーク(4)は表面側を上方に向けてテーブル(16)上の位置決め用のストッパー(17)に対し、その端縁を充分に押圧してテーブル(16)上に位置決めする。しかしてプレス装置を作動させるとラム(14)は下動さ

特開昭52-32192 (2)

柱形状孔部(4)との組合せ形状で貫設されている。

しかして、上記のように貫設される血形孔(1)を本例の貫通孔貫設方法によって成形するには次のような成形ポンチが供される。

(5)は成形ポンチで、円柱形状の柄部(6)と円柱形状のポンチ部(7)と、柄部(6)とポンチ部(7)との間の円錐台状のテーバー部(8)とを備え、さらに柄部(6)とテーバー部(8)と交わる円周部位に、柄部(6)と同径で尖鋭円形刃状の切り込み部(9)が一体状に設けられている。

また前記ポンチ部(7)の先端外周部には切刃(10)を付与するためシャー角(11)が与えられている。10はポンチホルダー(13)に螺着するために柄部(6)の先端に設けたねじ孔である。

次に、上記のように構成された成形ポンチ(5)をプレス装置に装着しその作用および効果を説明す

れこれにともなってポンチホルダー(13)が下動されポンチホルダー(13)に螺着された各成形ポンチ(5)の先端外周部はワーク(4)に押圧力を加える。

さらにラム(14)が下動されると、ワーク(4)は第6図(4)に示すようにポンチ先端部によって圧縮応力を受けて変形し、切刃(10)により木材繊維組織が剪断される。しかして、ワーク(4)はラム(14)の下動に伴ってさらに圧縮剪断され、ポンチ部(7)によって円柱形状孔部(4)が貫設される。円柱形状孔部(4)の上記貫設工程の途中において、円柱形状孔部(4)の上部外周縁(12)はテーバー部(8)により徐々に圧縮される。(第6図(4)参照)。この場合テーバー部(8)と接するワーク(4)の上面側ではしわ状の凸部(14)が発生するが成形ポンチ(5)がさらに下動されるが、柄部(6)とテーバー部(8)の交わる外周部位に設けられた切り込み部(9)が上記により発生したしわ状の

凸部(4)の外周部位を押圧する。しかして、成形ポンチ(5)がさらに下動されることにより、切り込み部(9)に付与された切刃によって木材の繊維状の組織が円形状に切断され、しわ状の凸部(4)の拡大が阻止されるとともに、テーバー部(8)の圧縮力により、しわ状の凸部(4)も円錐台形状孔部(3)方向へ押し込まれて、恒厚円柱形状孔部(2)および円錐台形状孔部(3)が成形される(図6図内参照)。

このようにして皿形孔(1)が成形されるとプレス装置のフレーム(4)は上動され、それとともにポンチホルダー(3)も上動され、以降上記した操作がくり返される。

以上の説明でも明らかなように成形ポンチ(5)のテーバー部(8)により斜方向への圧縮力により発生するワーク(4)の表面の孔周縁のしわ状の凸部(4)は切り込み部(9)により与えられた剪断面で完全に阻

止され、発生したしわ状の凸部(4)はテーバー部(8)で圧縮されて円錐台形状孔部(3)を形成し、ワーク(4)の皿形孔の周縁部は平滑面を保持し、かつ所定のピッチの所望の孔が得られ、さらに事後の処理を行う必要のないワーク(4)が得られ好都合である。

次に他の実施例について第7図を用いて説明する。第7図の実施例と同じ機能をはたす部位は同一番号で(5)を附して示して説明する。

成形ポンチ(5a)は次のように構成される。すなわち、(5a)は円筒形状の切り込みバイトで該切り込みバイト(5a)の先端部には尖鋭円形刃状の切り込み部(9a)が付されている。

成形ポンチ(5a)は次のように構成される。すなわち、(5a)は円筒形状の切り込みバイトで該切り込みバイト(5a)の先端部には尖鋭円形刃状の切り込み部(9a)が付されている。ポンチ(5a)は上記切り込みバイト(5a)に同心状に内嵌移動する柄部(6a)を備え、また該柄部(6a)はワーク(4)を打ち抜くポンチ部(7a)を備え、また柄部(6a)とポンチ部(7a)の間に円

錐台状のテーバー部(8a)が一体状に成形されている。

上記のように構成された成形ポンチ(5a)においての機能は第7図の実施例とはほぼ等しく、プレス装置での操作が異なり、ポンチホルダー(3)に装填された成形ポンチ(5a)は切り込みバイト(5a)がまず下動されてワーク(4)を押圧しついで一定深さにワーク表面に円形状の切り込みを与えワーク(4)の木材の繊維組織が剪断される。引き続きポンチ(5a)が切り込みバイト(5a)の内周面に沿って下動され、ポンチ部(7a)はワーク(4)を圧縮剪断して円柱形状孔部(4)を形成し、テーバー部(8a)は円柱形状孔部(4)の上端外周縁(3)は圧縮され円柱形状孔部(4)の穿孔が進むとさらに外周縁(3)は圧縮され、このためテーバー部(8a)と接するワーク(4)の上面でしわ状の凸部(4)が発生するが切り込

みバイト(5a)より与えられた剪断面で発生が止まりテーバー部(8a)の圧縮力で押し込まれて所定の皿形孔(1)が形成され、ワーク(4)の皿形孔(1)の周縁部は平滑面が保持される。

また上記切り込みバイト(5a)による円形状の切り込み工程とポンチ(5a)による打抜き工程とを一回のプレス工程で行うことなく単独のプレス工程に分けて行う事も考慮される。

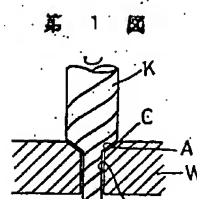
4 図面の簡単な説明

第1図は第1図および第2図は従来の実施例を示し、

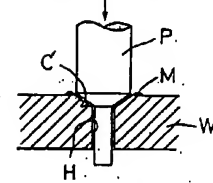
第3図～第7図は本発明の一実施例を示すもので、第3図(ハ)は皿形孔の平面図、第3図(ロ)は第3図の側面断面図、第4図は成形ポンチの断面図、第5図は成形ポンチをプレス装置に装備した要部説明図、第6図(イ)～(ウ)は作用を説明する断面図、第7図は本発明の他の実施例の作用を説明する断面図である。

(5)、(5a)…成形ポンチ (6)、(6a)…柄部
(7)、(7a)…ポンチ部 (8)、(8a)…テーパ部
(9)、(9a)…切り込み部 (10)…切り刃
(11)…シャープ角 (12)…切り込みバイト

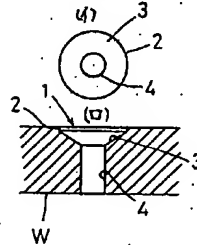
特許出願人 株式会社 山本製作所
代理人 弁理士 岡田 英彦



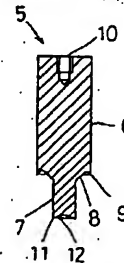
第2図



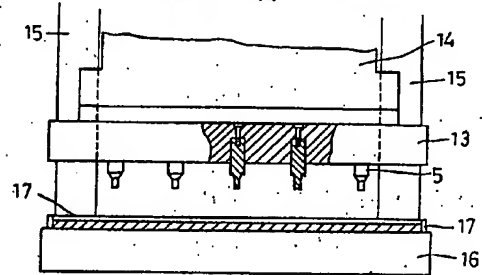
第3図



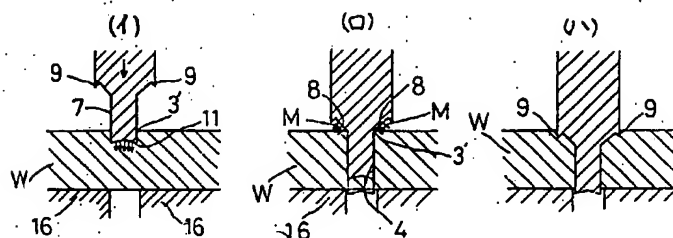
第4図



第5図



第6図



第7図

